Thomas Hardy

聖徳大学言語文化研究所　公開研究発表会

ハーディ文学の現代性とは

トマス・ハーディ（1840-1928）は、映画『テス』や『日陰の二人』の原作者として知られる英国の詩人・小説家です。没後すでに 80 年余り、評価は高まっていますが、何故でしょう？私たちが遭遇し、苦悩する現在の諸問題が、彼によって表現されているからです。今回は、新進気鋭の研究者たちに、その「現代性」を提起していただき、それを中心に話し合いたいのです。

日　時：2月25日（木）１６：００～１８：００
会　場：１０号館５階（千葉県松戸市松戸 1169）（松戸駅東口徒歩１分）
司　会：藤井　繁（聖徳大学客員教授　文学博士）
発表者：天野暁子（聖徳大学兼任講師）
　　井村　猛（聖徳大学兼任講師）
　　小山　努（聖徳大学兼任講師）
　　冨永久子（聖徳大学兼任講師）
参加費：無 料
お申込み：電話または E-mail でお申込みください。
　　聖徳大学言語文化研究所（知財戦略課）
　　電話　047-365-1111（代）
　　E-mail：chizai@seitoku.ac.jp

（司会者から） ネットが普及し、私的なことを快感だけを頼りに記し、それを読まされる機会も増えています。表現というものは実は、「自分は特別」と思い込む自意識の慰めではなく、相手を認め、思いやる発明であり運動であったことが忘れられがちです。ハーディの小説の一節は、どれも本質に触れるようなもので光り、胸を打たれます。読者に語り掛けるような「暖かさ」があります。その行間に何があるのか、自分の言葉で見つめ、考えるときがやってきているのです。「読んで考える」読書は、私たちの人生の、よき伴走者です。パソコンで事実の断片をいくら集めても、それは「真実」に遠く及びません。